慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	クラウドシステムと大学連携共同運用に関する総合的調査研究
Sub Title	Study on joint operation system by cloud system and university library consortium
Author	入江, 伸(Irie, Shin)
Publisher	慶應義塾大学
Publication year	2018
Jtitle	学事振興資金研究成果実績報告書 (2017.)
JaLC DOI	
Abstract	図書館システム共同運用に向けて以下の調査を行った。 1.クラウドシステムの課題調査と対応 1)クラウドシステムには一般的に以下のような課題があり, 技術評価を行い契約で明確にする必要がある。 ・ 国内法での対応が難しい国境を超えたシステムの稼働保障とデータ保全 ・ 一般的なセキュリティーへの対応と問題があった場合の影響 ・ 個人情報保護 ・ 訴訟裁判地 ・ 利用するクラウドシステムから撤退・ 移行する場合の方法 2)その調査を踏まえ, 利用契約には以下の点の変更を行った。 ・ ローカル側でのデータバックアップ ・ 稼働保障とメンテナンス停止時間の確認 ・ 訴訟裁判地の変更 2.アプリケーションクラウドの調査・ 事例研究 クラウド図書館システムには, ①ローカルサーバにインストールして利用するパッケージをデータセンターなどのクラウド環境に置いてサービスするもの, ②アプリケーションクラウドとして設置してサービスする大きく2つの方法があり, それぞれ利用料のモデルも異なる。図書館側の運用負荷を軽減し, 安定運用を進めるためには, ②のほうがシステム運用負荷を権限していく可能性が高いことが明確になった。 ②のシステムをには, グローバルにExlibris社製品のAlmaが大きな影響力と多くの導入事例がある。 事例としては, 以下のようなものがある ・ 米国Orbis Cascade Alliance(OCA) : ワシントン大学を含めた39大学のコンソーシアム ・ ノルウェーBIBSYS : 100館が参加するコンソーシアム ・ 香港JULAC : 香港大学を含む8大学コンソーシアム 3.国内の大学図書館へのシステム共同運用についての聴取り調査 国内大手大学図書館へ共同運用の可能性について聴取り調査を行い, 図書館コンソーシアムでの共同運用には興味はあるものの, 具体的な政策にしくことは難しそうであった。 これから, 法人統合や法人間の連携強化が予想される中で重要な調査となったと思う。 We conducted research on the following subjects for joint operation of library system with Waseda University Library. 1. Investigation of general problems of cloud system 2. Case study of library system operated by university library consortium 3. Investigation of library system to serve in cloud environment 4. Survey on cooperative system operation in Japanese university libraries
Notes	
Genre	Research Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=2017000002-20170331

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

2018 年 4 月 5 日

2017 年度　学事振興資金（共同研究）研究成果実績報告書

研究代表者	所属	メディアセンター	職名	課長	補助額	450　千円
	氏名	入江 伸	氏名（英語）	SHIN IRIE		

研究課題（日本語）

クラウドシステムと大学連携共同運用に関する総合的調査研究

研究課題（英訳）

Study on joint operation system by cloud system and university library consortium

研究組織

氏　名 Name	所属・学科・職名 Affiliation, department, and position
入江　伸（SHIN IRIE）	メディアセンター本部課長
五十嵐　健一（KENICHI IGARASHI）	メディアセンター本部主任
古賀　理恵子（RIEKO KOGA）	メディアセンター本部主任
河野　江津子（ETSUKO KOUNO）	メディアセンター本部課長

１．研究成果実績の概要

図書館システム共同運用に向けて以下の調査を行った。

1.クラウドシステムの課題調査と対応
1)クラウドシステムには一般的に以下のような課題があり、技術評価を行い契約で明確にする必要がある。
・国内法での対応が難しい国境を超えたシステムの稼働保障とデータ保全
・一般的なセキュリティーへの対応と問題があった場合の影響
・個人情報保護
・訴訟裁判地
・利用するクラウドシステムから撤退・移行する場合の方法
2)その調査を踏まえ、利用契約には以下の点の変更を行った。
・ローカル側でのデータバックアップ
・稼働保障とメンテナンス停止時間の確認
・訴訟裁判地の変更

2.アプリケーションクラウドの調査・事例研究
　クラウド図書館システムには、①ローカルサーバにインストールして利用するパッケージをデータセンターなどのクラウド環境に置いてサービスするもの、②アプリケーションクラウドとして設置してサービスする大きく2つの方法があり、それぞれ利用料のモデルも異なる。図書館側の運用負荷を軽減し、安定運用を進めるためには、②のほうがシステム運用負荷を権限していく可能性が高いことが明確になった。
　②のシステムをには、グローバルに Exlibris 社製品の Alma が大きな影響力と多くの導入事例がある。
　事例としては、以下のようなものがある
・米国 Orbis Cascade Alliance(OCA):ワシントン大学を含めた 39 大学のコンソーシアム
・ノルウェー BIBSYS:100 館が参加するコンソーシアム
・香港 JULAC:香港大学を含む 8 大学コンソーシアム

3.国内の大学図書館へのシステム共同運用についての聴取り調査
　国内大手大学図書館へ共同運用の可能性について聴取り調査を行い、図書館コンソーシアムでの共同運用には興味はあるものの、具体的な政策にしくことは難しそうであった。
　これから、法人統合や法人間の連携強化が予想される中で重要な調査となったと思う。

２．研究成果実績の概要（英訳）

We conducted research on the following subjects for joint operation of library system with Waseda University Library.

1. Investigation of general problems of cloud system
2. Case study of library system operated by university library consortium
3. Investigation of library system to serve in cloud environment
4. Survey on cooperative system operation in Japanese university libraries

３．本研究課題に関する発表

発表者氏名（著者・講演者）	発表課題名（著書名・演題）	発表学術誌名（著書発行所・講演学会）	学術誌発行年月（著書発行年月・講演年月）
入江伸	早稲田との共同運用システムについて	:大学図書館問題研究会	
入江伸	早稲田との共同運用システムについて	SLIS 三田会	